



発行：玉琳山 天寧寺
〒460-0018
名古屋市中区門前町3-21
TEL 052(321)5865
FAX 052(324)8079
メール tennejij@road.ocn.ne.jp
郵便振替 00870-1-30614
発行人：副住職 大野俊人



令和六年の新春を迎え、謹んで新年のお祝辞を申し上げます。

ご家族の皆様のご健康とご多幸を心よりお祈りいたしてまいります。

「笑門来福」笑う門には福来たる。いつも笑いの絶えない家庭（人）には自然に幸福がやってくるという意味です。世界中の多くの方々が笑って過ごせる年になることを願っております。

私たちは、常に幸せを願って生きています。一年の初めには、特にその思いを強く抱きます。

お釈迦様が北インドのクシナールで八十歳の生涯を閉じる直前に説かれた『遺教経』八大人覺の

中の一つに「精進」があります。

まことの幸せを得るための大切な生き方です。「どんなに達成困難と思われる一大事も、目標達成に向けて毎日を過ごせば、必ず実現できるときがやって来る」とお示しになっていきます。精進とは分かりやすく言えば、仏の教えと悟りを求めて迷うことなくひたすら努力すること。善に励み、悪を断つ努力を継続的に行うことです。

また、曹洞宗の開祖 道元禪師様は「精にして雑ならず進んで退かず」とお示しになられたように、精進とは一心に退かず努力することです。どんな道でも、その習得に困難はつきものですが、そんな困難に直面したとき、我々は自分には無理だと思ひ込み、道を歩むのを諦めてしまいがちです。しかし、そんな決めつけによって、目

標が達成できなくなるのも確かです。大切なことは、そうした我が身を道から退かせてしまうような思い込み、決めつけを捨て、努力することに全身心を集中することです。

また、私たちは人生の中で老苦・病苦・死苦という苦しみや、地震などの天災から逃れることが出来ません。だからこそ助け合って生きていかなければいけないのに、時に傷付け合い、騙し合い、奪い合い、殺し合うことまであるのが悲しい現実です。戦争・飢餓・差別・いじめなど、人間の欲深さ・心の貧しさが生み出す苦しみ合いは無くさなければなりません。そのためには欲望を出来るだけ抑えることが大切です。そして、お互いを認め合い、助け合って生きられるように精進する必要があります。



今年の干支は甲辰です。「甲」は十干の始まりにあたり、生命や物事の始まりを意味します。「辰」は十二支の中では唯一の架

空の生き物の龍を意味し、龍は仏や神の使いであり、世を統括する権力の象徴です。昇り龍などに描かれるように、勢いよく活気あふれる年になると言われています。

本年が皆様にとって、昇龍の如く飛躍の年になるよう、毎日できることから精進して頂きたいと存じます。

おおふくちや 大福茶



立春から始まる新しい年に初めて汲んだ水を若水といって、健康や豊作、一年の邪気を祓い幸せを招く水とされています。

旧暦から新暦に移り変わる中で、今では正月の習慣になっています。まずは仏壇や神棚にお供えをし、それからお雑煮を作ったり、書初めの墨をすったりするのに使います。正月にその若水で入れたお茶を大福茶と呼び、無病息災を願います。煎茶やほうじ茶に、結び昆布や小梅などを入れたものです。水道の水でも、改めて感謝の気持ちで受け取って、若水として大福茶を入れてはいかがでしょうか。

七五三



お釈迦様は「人が生まれたとき
には実（まこと）に口の中に斧（おの）が生じている。
愚者（ぐしゃ）は悪口を言（い）って、その斧に
よって自分を斬（き）り割（き）くのである」
と言（い）われています。

人は生まれた時から、既に口の中
に斧（おの）を持（も）っています。愚（おろ）か者は
悪口（あくぐち）を言（い）、その斧（おの）によ（よ）って自（みづか）
分（ぶん）を斬（き）り割（き）き人も苦（くる）しめま（ま）す。自（みづか）
分（ぶん）の撒（ま）いた種（たね）はすべ（す）て自（みづか）分（ぶん）に返（か）っ
てく（く）るのです。人（ひと）に悪口（あくぐち）を言（い）うこと
で人（ひと）を斬（き）り、悪意（あくい）を抱（かか）り度（ど）に自（みづか）
分（ぶん）を傷（や）つ（や）つてい（い）ます。斧（おの）を捨（す）て自（みづか）
分（ぶん）を傷（や）つ（や）つけること（こと）をや（や）めれば、心（こころ）
はそ（その）のぶ（ぶ）ん軽（か）くなる（なる）はず（はず）です。
乱暴（らんぼう）な言（い）葉（は）や悪口（あくぐち）は聞（き）いてい（い）る
とあまり気持（きもち）の良（よ）いもの（もの）ではあ（あ）
りま（ま）せん。人（ひと）の悪口（あくぐち）を言（い）っ（い）てい（い）
る（る）と、清（きよ）い心（こころ）を自（みづか）分（ぶん）で傷（や）つ（や）つてしま（しま）
い、だ（だ）んだ（だ）んと口（くち）で語（かた）る言（い）葉（は）も汚（よご）
れ（れ）てい（い）き、悪（わる）い言（い）葉（は）が多（おほ）くなる（なる）の

で戒（い）めなさいという教（おし）えです。

さて、昔（むかし）から日本（にっぽん）では、子（こ）供（ご）の
健（た）やかな成（な）長（ちやう）をお祝（いわ）いする七（な）五（ご）三（さん）
が執（と）り行（い）わ（れ）てい（い）ます。七（な）五（ご）三（さん）と
は子（こ）供（ご）の数（かず）え年（とし）や満（まん）年（ねん）齢（れい）の三（さん）歳（さい）、
五（ご）歳（さい）、七（な）歳（さい）にな（な）った時（とき）に元（げん）気（き）に
育（そだ）つてく（く）れたこと（こと）をお祝（いわ）いし、こ
れ（れ）から（から）の無（む）事（じ）成（な）長（ちやう）を願（ねが）い、お寺（てら）や
神（かみ）社（しゃ）へお参（ま）りす（す）る行（い）事（じ）です。

昔（むかし）は医（い）療（りょう）な（な）ど様（よ）々な（な）こと（こと）が発（は）達（たつ）
し（し）てい（い）な（な）かつた（た）ので、お子（こ）様（さま）が無（む）
事（じ）に成（な）長（ちやう）す（す）ること（こと）はと（と）ても難（が）し
かつた（た）よう（よう）です。今（いま）では当（あた）り前（まえ）
ともい（い）える（える）こと（こと）が、昔（むかし）は当（あた）り前（まえ）
ではあ（あ）りま（ま）せん（せん）で（で）した（た）。

子（こ）供（ご）は成（な）長（ちやう）し（し）てい（い）く中（ちゆう）で、色（いろ）々（々）
な（な）こと（こと）を覚（し）えてい（い）きま（ま）す。考（かん）え（え）る
力（ちから）、成（な）長（ちやう）す（す）る力（ちから）とい（い）う（う）のは、時（とき）に
想（さ）像（ざう）を越（こ）えてい（い）ると感（かん）じ（じ）る事（こと）もあ（あ）
りま（ま）す。親（おや）と（と）して（して）は好（こう）奇（き）心（しん）や疑（ぎ）問（もん）、
独（どく）創（そう）性（せい）を誤（あや）まつ（つ）て封（ふう）じ込（こ）め（め）ないよう（よう）
に（に）し（し）たい（たい）もの（もの）です。
お釈（しやく）迦（か）様（さま）の教（おし）えのよう（よう）に、悪（あく）口（ぐち）
な（な）ど発（は）す（す）ること（こと）な（な）く正（ただ）しい言（い）葉（は）を
使（つか）い、清（きよ）らかな心（こころ）で、
健（た）やか（か）に成（な）長（ちやう）す（す）るこ（こ）
と（と）を祈（いの）つ（つ）てや（や）みま（ま）せん。



八大人覚



八（はち）大人（だいじん）覚（かく）とは八（はち）つ（つ）の大人（だいじん）の自（みづか）
覚（かく）のこと（こと）です。すなわ（わ）ち仏（ぶつ）や菩（ぼ）薩（ざく）が
行（い）う八（はち）つ（つ）の切（き）切（せつ）な修（しゆ）行（ぎやう）です。

一（いち）つ（つ）目（め）は「少（しょう）欲（よく）」欲（よく）を少（すく）なくす
る。欲（よく）を無（む）くせ（せ）とは説（と）いてい（い）ま（ま）せ
ん。お釈（しやく）迦（か）様（さま）は欲（よく）の多（おほ）い人（ひと）は、求（もと）
め（め）るこ（こ）とも多（おほ）く苦（くる）悩（なう）も大（おほ）きい。欲（よく）
を少（すく）なくす（す）れば、そ（その）の分（ぶん）、心（こころ）の安（やす）
ら（ら）ぎが得（え）られ（れ）ると説（と）かれま（ま）す。

二（に）つ（つ）目（め）は「知（ち）足（そく）」足（そく）るこ（こ）と（と）を
知（し）ること（こと）です。これ（これ）で十分（じゆうぶん）です（す）と知（し）
る心（こころ）です。この心（こころ）が無（む）いとい（い）つ（つ）ま
でも欲（よく）望（ぼう）に引（ひ）きず（ず）り回（まわ）され（れ）て、結（むす）
局（きよく）哀（あ）れな（な）こと（こと）にな（な）つ（つ）てしま（しま）いま（ま）す。
三（さん）つ（つ）目（め）は「寂（じやく）静（じやう）」騒（さわ）がし（し）さ（さ）か
ら離（はな）れ、一（いち）人（ひと）の静（じやう）かな時（とき）間（かん）を
持（も）ち、それ（それ）を楽（たの）しむ（む）こと（こと）です。現（げん）代（だい）は情（じやう）
報（ほう）が多（おほ）すぎ（ぎ）てい（い）けま（ま）せん。情（じやう）報（ほう）過（か）
多（た）とい（い）わ（わ）れる時（とき）代（だい）です。時（とき）には情（じやう）
報（ほう）から離（はな）れて静（じやう）かに自（みづか）己（ぎ）を見（み）つ（つ）め
ま（ま）し（し）よう（よう）とい（い）う教（おし）え（え）です。スマ（スマ）ホ
やパ（パ）ソ（ソ）ン（ン）を
使（つか）い（い）こ（こ）な（な）せ（せ）るこ（こ）と（と）だ
け（け）で（で）な（な）く、それ（それ）から離（はな）れるこ（こ）とも
出（い）来（き）る人（ひと）で（で）な（な）け（け）れ（れ）ば（ば）な（な）り（り）ま（ま）せん。

四（し）つ（つ）目（め）は「精（しやう）進（しん）」努（こつ）め励（む）むこ（こ）と（と）。
怠（た）ること（こと）な（な）く、一（いち）瞬（しゆん）一（いち）瞬（しゆん）を大（おほ）切（せつ）に
生（な）き（き）るこ（こ）と（と）です。

五（ご）つ（つ）目（め）は「不（ふ）妄（まう）念（ねん）」正（ただ）しい教（おし）え
を心（こころ）に念（ねん）じて決（けつ）して忘（わす）れ（れ）ず、い（い）つ
も念（ねん）じ続（つ）けるこ（こ）と（と）です。欲（よく）望（ぼう）の誘（い）
惑（わく）に負（お）けてしま（しま）うの（の）は、こ（こ）の念（ねん）じ
る心（こころ）が弱（よわ）いから（から）だ（だ）と説（と）かれま（ま）す。

六（ろく）つ（つ）目（め）は「禪（ぜん）定（じやう）」坐（ざ）禅（ぜん）のこ（こ）と（と）で
す。これ（これ）は心（こころ）を散（さん）ら（ら）さ（さ）ず、坐（ざ）禅（ぜん）し
て心（こころ）を静（じやう）め調（てい）え（え）るこ（こ）と（と）です。
七（しち）つ（つ）目（め）は「智（ち）慧（え）」正（ただ）しく物（ぶつ）事（じ）を
見（み）極（ごく）め（め）るこ（こ）と（と）がで（で）き（き）る力（ちから）のこ（こ）と（と）で
す。我（が）執（しやく）我（が）見（けん）に（に）と（と）ら（ら）わ（わ）れるこ（こ）と（と）な
く、道（だう）理（り）に適（てき）つ（つ）た判（はん）断（だん）を下（くだ）して自（みづか）
ら（ら）が進（しん）む（む）べき道（みち）を歩（あ）むた（た）め（め）の真（まこと）理（り）
に気（き）づ（づ）く力（ちから）です。

八（はち）つ（つ）目（め）は「不（ふ）戲（げ）論（ろん）」戲（げ）論（ろん）とは、
無（む）益（やく）な言（い）葉（は）や議（ぎ）論（ろん）をし（し）ないこ（こ）と（と）を
言（い）い（い）ま（ま）す。無（む）駄（だ）な言（い）葉（は）を慎（しん）み、沈（しん）
黙（もく）を守（まも）るこ（こ）と（と）です。無（む）益（やく）な議（ぎ）論（ろん）を
するよ（よ）りも、今（いま）な（な）すべきこ（こ）と（と）を今（いま）
取（と）り組（く）むこ（こ）と（と）そ（そ）が
大（だい）事（じ）だ（だ）と（と）お説（と）
き（き）に（に）な（な）ら（ら）れ（れ）て（て）い（い）ま（ま）す。

八大人覺は正しく大人になれる八つの覚りです。これらは全体が密接に結びついていきます。お釈迦様が弟子に対して説かれたもので、すので、広く私たちの生きる指針となります。この八つの修行を心に留め置き実践して頂ければと存じます。

本堂耐震改修工事報告 客殿・納骨堂新築工事



この度は本堂耐震改修工事に対し、多大なるお力添えを頂きまして誠に有難うございました。檀信徒をはじめ沢山の方々のお陰で、昨年七月末に無事に完成しました。改めま



して心より御礼申し上げます。今後も皆様が集うお寺として維持できるように更なる精進をしてまいります。左は本堂耐震改修工事の決算書です。

天寧寺本堂耐震改修工事収支決算書 (単位:円)

収入の部		支出の部	
檀信徒寄附金合計	7,096,000	改修工事費	45,956,000
三宝殿信者寄付金合計	1,345,000	設計工事監理費	2,881,200
護持会	12,410,000	仏具修理費	3,910,599
模立金	1,000,000	仏具購入費	
住職寄附金	1,000,000		
天寧寺一般会計	30,896,799		
収入合計	52,747,799	支出合計	52,747,799

設計 菅野企画設計(愛知県一宮市)
施工 澤崎建設(岐阜県東海市)

また、客殿と納骨堂の新築工事は、近年の建設費高騰の影響で設計を大幅に変更し、昨年十月十八日に地鎮式を厳修し工事が始まりました。施工は大本山總持寺など多くの社寺を手掛ける、愛知県江南市の(株)アイチケンです。完成は令和六年九月末予定です。納骨堂の詳細につきましては後日ホームページでお知らせします。

本堂耐震改修工事 浄財寄進者御芳名

- 金式拾萬円也 兼松克己殿
 - 金壹拾萬円也 魚住保造殿 川瀬敏裕殿
 - 高木柳平殿
 - 金伍萬円也 加藤春雄殿 野田俊殿
 - 金參萬円也 伊與田政子殿 加納志う殿
 - 千田美和殿
 - 荒井若江殿 神谷俊二殿
 - 高津美和殿
- 天寧寺では、檀信徒はもとより、一般の方々よりご奉納とご寄附を受けております。浄財は、伽藍整備、仏具等修理に当てさせていただきます。
- 尚現在、客殿・納骨堂建設中につき、浄財は工事並びに周辺整備に当てさせていただきます。
- 郵便振替 00870-1-30614
宗教法人 天寧寺

大掃除



一年間暮らしてきた我が家の汚れを、すっきりと綺麗に落とす大掃除。普段は手の回らない場所まで掃除することで、我が家の仏様や神様も居心地が良くなります。大掃除はもともと旧暦一月十三日に行っていた「煤払い」が起源です。仏壇や神棚の汚れを払い竹竿の先に藁をくくりつけた煤杵天という特別な道具で、天井や囲炉裏といった場所を掃き清めました。旧暦から新暦に移り変わる中

十二月十三日に煤払いをする習慣は受け継がれ、社寺で行われる煤払いの風景は年末の風物詩です。天寧寺でも三宝大荒神の大祭の前に毎年煤払いを行っています。しかし、十二月十三日から正月までは日があるため、次第に一般家庭の煤払い大掃除は年末に行うようになりました。

この日を境に正月支度を始めるため、煤払いは「正月事始め」とも呼ばれ、年神様を迎える準備を始める大切な行事でもあります。お正月に我が家に訪れる年神様の宿る場所として、門松を立て鏡餅をお供えし、家族のみんなが健康で幸せに暮らせるようお迎えます。正月のしつらえの多くは、年神様へのおもてなしです。

ところで、鏡餅のような年神様へのお供えは「年玉」と呼んでいました。それを家長が家族に分け与えたものを「お年玉」と言います。鏡餅は年神様の生命ともされ、家族に分け与えることで一年を無事に過ごせるようにという願いが込められています。お正月にも楽しめる嬉しいお小遣いは、年神様の

お下がりを受け取っていたのです。しかし、高度経済成長期の頃から、お餅の代わりにお金を与えるようになり、大人が子供に渡すお小遣いに変化していったのです。

禅語 万法帰一

ばんぼういちにきす

不幸せが永遠に続くことは、絶対ではありません。苦しみや悲しみが一生続くこともありません。数年前は一生続くと怯えていたコロナ禍の状況も、過去の出来事になりつつあります。今という時間を一生懸命に生きていけば、必ず状況は変わっていきます。

「生者必滅 会者定離」という

『平家物語』に出てくる言葉があります。この世に生を受けた者には、やがては必ず旅立ちの時がやってきます。出会った人たちとも必ず別れの時がやってきます。この世の中で永遠というものは何一つ存在しません。常なるものなどこの世にはなく、それが無常ということです。

幸福の温かさに包まれているとき、人はそれが永遠に続くものだ

と信じて疑いません。それが人間というものです。しかし、今の幸福が永遠に続くことはないのです。世の中や自分の状況は常に移り変わり、留まるところがありません。それが真実です。

きつと頭の中では、皆がそのことを分かっているはずですが、今の状況は永遠には続かないし、大切な家族や愛犬との別れもいずれ訪れます。そんなことは分かっているけれども、ついそこから目を背けてしまいます。必死になつて今の幸せにしがみつこうとしてしまいます。それは、決して悪いことではありません。しかし、一方では無常であるという真実も心の片隅に置いておく必要があります。

反対に、今が不幸せだと感じている人も沢山います。これも同じこと。その不幸せが永遠に続くことは絶対ではありません。苦しみや悲しみが一生続くことなどありません。「禍福は糾える縄の如し」常に表と裏とが代わる代わるやってくる。それを信じていくことです。



令和六年 年回表

- 一周忌 令和五年
- 三回忌 令和四年
- 七回忌 平成三十年
- 十三回忌 平成二十四年
- 十七回忌 平成二十年
- 二十三回忌 平成十四年
- 二十七回忌 平成十年
- 三十三回忌 平成四年
- 三十七回忌 昭和六十三年
- 四十三回忌 昭和五十七年
- 四十七回忌 昭和五十三年
- 五十回忌 昭和五十年

*法事のお申し込みはお早めに。現在、新築工事中つき、駐車台数に限りがございます。

令和六年 行事予定

- 三月二十日(水)春分の日
春彼岸会墓経 八時〜十三時
永代供養墓合同供養 十三時〜
- 八月十一日(日)山の日
お盆墓経 八時〜十三時
永代供養墓合同供養 十三時〜
- 八月十七日(土)十三時〜
施食会(天寧寺本堂)
- 九月十六日(月)敬老の日十三時〜
永代経(天寧寺本堂)
「永代経」申込者の合同供養です。永代供養墓に納骨されている方のご供養ではございません。
- 九月二十二日(日)秋分の日
秋彼岸会墓経 八時〜十三時
永代供養墓合同供養 十三時〜
- 十二月十五日(日)九時〜十四時半
三宝大荒神 大祭(天寧寺三寶殿)
*天寧寺霊苑 永代供養墓 合同供養
十三時〜 永代供養 合祀墓
十三時十五分〜永代供養 個別墓
十三時三十分〜樹木葬墓

天寧寺霊苑

永代供養墓

樹木葬 二霊 五十五万円



*お好きな色の石プレートにお好きな絵や文字を彫刻できます。個別区画で春・夏・秋の年3回供養。最終納骨後17回忌経過しましたらハナミズキの下へ合祀。

個別墓 二霊 六十八万円



*五輪塔型の個別墓で従来のお墓の様に正面に〇〇家や側面に戒名や名前などが彫刻できます。春・夏・秋の年3回供養。最終納骨後33回忌経過しましたら合祀墓へ合祀。

合祀墓 一霊 二十五万円



*はじめから他の皆様のご遺骨と一緒に合祀墓へ納骨します。墓誌には戒名や名前などを彫刻できます。春・夏・秋の年3回永代供養します。



新規墓地区画使用者募集
名古屋市平和公園の入口の好立地で緑や花に囲まれた明るい霊苑です。
*檀信徒様以外でも墓地区画 永代供養墓は使用可能で宗派不問です。
詳しくはお問い合わせ下さい。